

**ナシ「新高」における大果生産のための結実管理**

ナシ「新高」における結実管理は、摘蕾よりも早期に予備摘果を行う方が果実の肥大効果が優れている。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹部 (担当者: 北村光康)

**研究のねらい**

「新高」は、地域特産的な性格が強いため、全国的に研究蓄積が少なく、栽培管理が体系づけられていない。そのため、全国的に主要な「幸水」等の早生品種をもとに、摘蕾・摘果等の結実管理作業が行われているが、晩生種であるため生育特性も異なるものと考えられる。

そこで、「新高」の大果生産のために最適な結実管理技術を確立する

**研究の成果**

1. 花芽整理の有無にかかわらず、摘蕾区で果実重が大きく、果実肥大のためには花芽整理よりも摘蕾の方が効果が高い(表1)。しかし、ていあ部の亀裂(ひび果)も多くなる。
2. 摘果は、早期に予備摘果を行うことで果実肥大が良くなるが、大果となることでていあ部の亀裂の発生が多くなる(表2)。
3. 果実の肥大は、作業労力を考慮すると、摘蕾処理よりも早期に予備摘果を行う方が効果が高く、効率的である(図1、2)。

これまで、「新高」においては全国的に栽培されている「幸水」等の早生品種の栽培方法をもとに、摘蕾・摘果の作業が行われてきたが、果実の肥大効果が小さい摘蕾作業を省くことで作業の省力化につながるとともに、早期に予備摘果を行うことで果実肥大が良くなり、収量が増大し、価格も向上する。

**普及上の留意点**

1. 大果が生産されるため、ていあ部の亀裂果(ひび果)の発生が助長されるので、発生が多い園では、小袋掛けを行う等の十分な対策をとっておく。
2. 果実を着果させない主枝、亜主枝先端部等については従来通り摘蕾を行う。

表1 「新高」の花芽整理及び摘蕾の有無と果実品質

処理区 <sup>1)</sup>	1果重 (g)	果形 <sup>2)</sup> 程度 (1~5)	糖度 (Brix)	ていあ部の 亀裂 発生率(%)
花芽整理 + 摘蕾	792	3.8	12.8	64
〃 + 無摘蕾	775	3.9	12.7	45
花芽無整理 + 摘蕾	783	3.6	13.1	50
〃 + 無摘蕾	744	3.6	13.0	41

注：1)花芽整理はせん定時(2月)に1果台当たり1~2つの花芽に制限、摘蕾は出蕾期(3月下旬)に1果台2~3花に制限  
2) 5(良)、3(並)、1(不良)の5段階評価

表2 「新高」の摘果の早晩と果実品質

処理区 <sup>1)</sup>	1果重 (g)	果形 <sup>2)</sup> 程度 (1~5)	糖度 (Brix)	ていあ部の亀裂の <sup>3)</sup> 程度別発生率(%)				
				0	1	2	3	4
予備摘果 + 早期仕上げ区	725	3.4	12.6	71	19	8	2	0
〃 + 晩期仕上げ区	779	3.5	11.1	76	15	4	3	2
早期仕上げ区	648	3.6	11.8	90	8	2	0	0
晩期仕上げ区	571	3.5	11.7	84	9	5	1	1

注：1)予備摘果は満開後16日目、早期仕上げは満開後48日目、晩期仕上げは満開後60日目に処理  
2) 5(良)、3(並)、1(不良)の5段階評価  
3) 0(無)、1(微)、2(軽)、3(中)、4(甚)、2以上で商品として問題有り

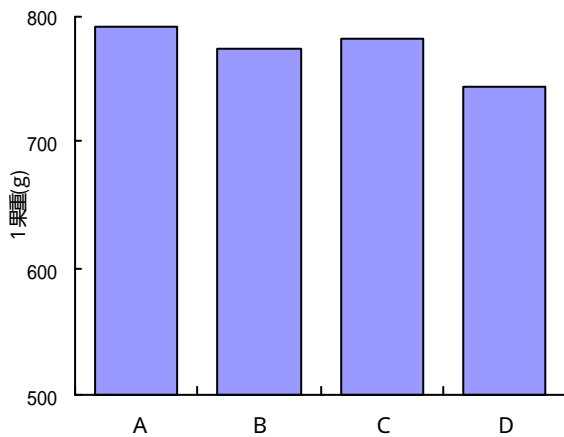


図1 花芽整理及び摘蕾の有無と果実重

A: 花芽整理 + 摘蕾 B: 花芽整理 + 無摘蕾  
C: 花芽無整理 + 摘蕾 D: 花芽無整理 + 無摘蕾

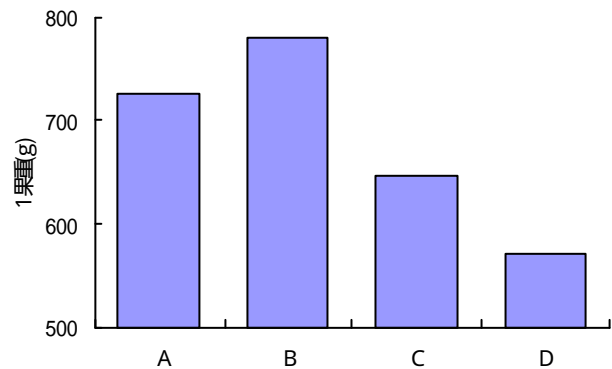


図2 摘果の早晩と果実重

A: 予備摘果 + 早期仕上げ区 B: 予備摘果 + 晩期仕上げ区  
C: 早期仕上げ区 D: 晩期仕上げ区